

# うめナビ

2013.1  
Vol.10

## 日本のモノづくりの未来への希望を乗せて滑るソリ 五輪を目指す 「大田ブランド」

下町ボブスレー  
プロジェクト



ソリの内部は精密部品がびっしり。町工場の腕の見せ所

モノづくりの町大田区で、ある一大プロジェクトが進められている。冬季五輪種目で「氷上のF1」とも呼ばれる競技、ボブスレーの二人乗り用ソリの開発である。現在、ボブスレー強豪国では、自国を代表する有力メーカーが中心となり開発・支援しているのに対して、日本では支援をする企業はない。そこで大田区を中心とする中小企業有志が「下町ボブスレープロジェクト」を発足し、ソリの製作に着手。ボブスレー界で初の国産競技術ソリが誕生することとなる。

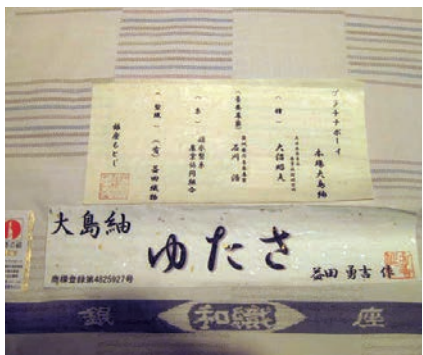
このプロジェクトには、「大田ブランド」登録企業である(株)昭和製作所、(株)上島熱処理工業所、(株)マテリアルを始めとした約30社にも及ぶ企業が賛同。各社の専門知識と高い技術が結集した。驚くべきはそのスピードだ。ソリのフレーム部品の設計図を渡され、出された条件が「納期は10日後」「自費製作」という無理難題。しかし、見事に部品を期限内に完成させ、11月に開催されたJIMTOF(日本国際工作機械見本市)に試作ソリを出展。「良いものはお金と時間を掛ければ誰だってつくれる。しかし、我々に求められているのは良いものを短時間でつくること。またお金を貰わず気持ちでつくるから、そこには魂が込められるんです」という言葉に、町工場としてのプライドとモノづくりに対する強い情熱が感じられた。

このソリには、様々な想いと期待が込められている。昨今の経済不安の中、中小企業が生き残るには、これまでの受託型ではなく、自らを考え、つくり、形にしていく自発的な体制に方向転換しなくてはならない。そして、製造者間で情報・技術を共有し、世界に誇れる技術を様々な分野に活かそうという強い決意が形となったのがこのソリなのだ。実際にソリの素材、開発技術は航空機等に採用されており、航空業界、環境エネルギー業界等の新しい分野に進出する大きな一歩となることが期待される。しかも、五輪競技用の製品ということで評判となり、若い世代の注目を集め、モノづくりの面白さを伝えるきっかけになるはずだ。

先日、長野県にて試作ソリの試走が行われた。ソリの改善点などはこれからだが、女子チームが自己ベストを更新、今後のソリ性能の躍進が期待される。町工場の想いが結集した手作りのソリは、2014年のソチ五輪出場という目標、さらには日本のモノづくりの未来への希望を乗せて滑り出そうとしている。

## 世界初、夢の純国産生糸「プラチナボーイ」 「きもの」の魅力を 銀座で発信している呉服店

銀座もとじ



生産者がしっかりと明記されている大島紬の反物

銀座もとじ(中央区銀座、泉二弘明社長、03・5524・3222)は、老舗呉服店が多く立ち並び、日本の文化の最先端である銀座に店舗を構える呉服店で、現在は大阪にも出店をしている。さらに、社長の念願であった「大島紬」の専門店を昨年2月に開店、泉二社長の故郷は奄美大島で、大島紬をきっかけに「着物の世界」に導かれた経緯があったので、感慨もひとしおであった。

同社が現在最も力を注いでいるのが、世界初、オスだけの蚕の繭から紡がれる、夢の純国産生糸「プラチナボーイ」である。「オスの繭からはいい糸がとれる」昔からそう言われてきた。卵を産まないオスの蚕は、メスよりも20%程度多くの絹を生産し、身体にあるタンパク質をすべて糸に吐き出すことができるため、メスの蚕が作り出す糸に比べて、艶も丈夫さも糸の長さもそして細さも特別なのだ。そして、同社が繭からプロデュースして、長年の研究によって生まれたのがオスのみが孵化するという



泉二社長(右側)、左は社長のご子息

新蚕。この蚕から紡がれる糸は、その名の通りプラチナのように美しい光沢を持ち、なめらかな肌触りが魅力である。

同社の販売に対する考え方は、「つくり手と消費者とのパイプ役」である。実際に、養蚕農家、製糸、染色、製織の現場に行って製作工程を見ることができ、肌で感じたことを消費者へ伝えるとともに、産地とのつながりを駆使したオリジナル商品を提供することが可能となり、ニーズに合った販売が可能となる。

また、現在の呉服業界は女性向け着物の販売が大半を占める中、同社は以前より「男のきもの」を発信し続けている。「めまぐるしく推移する流行と、使い捨ての消費社会であった20世紀が去り、21世紀の現在は、モノを大切に作る心や環境に優しい和の文化が見直されています。そんな価値観に共感する方たちが、『きもの』の魅力に目覚め始めているようです」と泉二社長は言う。

詳しくはホームページにて  
(<http://www.motoji.co.jp/>)

<p>うめナビ 送付先業種</p>	<p>商社 11先</p>	<p>スーパー・小売・百貨店 22先</p>	<p>メーカー 17先</p>	<p>マスコミ 52先</p>	<p>教育(大学・専門学校) 28先</p>	<p>公共機関 11先</p>	<p>ホテル 14先</p>	<p>金融 23先</p>	<p>建設関連 18先</p>	<p>システム関連 11先</p>	<p>その他 73先</p>	<p>合計 <b>280先</b></p>
-----------------------	-------------------	----------------------------	---------------------	---------------------	----------------------------	---------------------	--------------------	-------------------	---------------------	-----------------------	--------------------	---------------------------

※本誌は、城南信用金庫のお取引先に配布する他、商社、百貨店、スーパー、メーカー、マスコミ、大学等にもお届けしています。



高齢者「安否確認サービス」と防災機器「からくり地震時計」が好評

# 通信を活用した 公共性の高い事業を展開

アートデータ

アートデータ(世田谷区代田、小林明夫社長、03・5790・5300)は、ひとり暮らしの高齢者向けに同社独自の安否確認装置を使って、親と子供を結ぶ「安否確認サービス」を提供している。見守り・安否確認のパイオニアとして、このテーマに取組んで17年目になるが、特に、住居に備え付ける見守り装置としてマットセンサー、冷蔵庫センサーなどが人気である。問い合わせが殺到しており、自治体でも導入が進んでいる。



天災から命を守る「からくり地震時計」



「世のため人のため、社会のお役に立ちたい」と小林社長

同社の安否確認方法は、ひとり暮らしの高齢者の生活習慣を本人へは意識させずに毎日遠隔地側でモニタリングできるように工夫してある。例えばトイレや冷蔵庫の利用状況を電話回線でその都度メールで送り、毎日の健康のしるしとしてトイレを使っているか、台所に立っているか、冷蔵庫を使っているかなどの使用状況を把握できる。そして、生活状況が変わり、利用が減ってくると警告の

メールを家族やヘルパーに知らせる仕組みとなっている。インターネットは使わずに電話回線で送る仕組みのため、新たな契約や通信費が一切かからず人気が高い。もう一つの人気商品として、「からくり地震時計」がある。これは、強い揺れの地震が予測された際に地域別に放送される「緊急地震速報」や、津波・河川等の警報情報が放送される「緊急警報放送」を電波で自動受信し、周囲に音声で知らせることが出来る室内用防災機器で、学校や老人ホーム等、数多くの施設から問い合わせがある。通信を活用した公共性の高い事業を展開している同社。「世のため人のため、どこまで社会の役に立てるか挑戦していきたい」と小林社長は語る。  
詳しくはホームページにて  
(http://www.artdata.co.jp)

# 5つのスピリットを大切に お客様の「作りたたい」を 形にする印刷会社

日相印刷

日相印刷(相模原市南区麻溝台、荒井功社長、042・748・6020)は、創業48年の老舗印刷会社で、大学向け学校案内やシラバス、企業向け会社案内や製品カタログの企画・デザイン・製作を主業としている。最近ではデジタルソリューションを活かしたホームページの製作や空間プロデュースといった事業も積極的に展開している。第12回・第13回三菱ダイレクト製版印刷コンテスト優秀賞受賞、平成6年には、相模原市中小企業優良事業所賞を受賞するなど、業界での評価も高い。



提案できる、「印刷業」から「完全オーダーメイド産業」へ転換した業種として自らを捉えている。

同社の社員は、社名(NISSO)に因んだ5つのスピリットをしっかりと共有している。即ち、「必要(NEED)」とされる会社であるために、他にはないアイデア(IDEA)を発想し、的確でスマートな提案(SUGGEST)をし、常にお客様の悩みを解決(SOLUTION)、サポートを行うプロの組織集団(ORGANIZATION)である。従来、印刷業は完全受注産業であった。しかし、同社では、「印刷」を重要なコミュニケーションツールと定義し、顧客のニーズを具現化するためにどのような方法で印刷していくのか、あるいは新しい技術による従来とは異なるサービスを創造していくのかを

近年では、「神奈川県社案内ドットコム」を立上げ、「会社案内」という価値観の変革に取り組んでいる。従来、会社案内は、ブランド価値や会社の認知度を高めるツールであったが、同社はそれに加えて問い合わせ数やホームページへの誘導数の増加といった受注率アップにつながる「営業マン」としての役割を担わしている。顧客が会社案内を作成する目的や、潜在的なニーズを汲み取るコンサルティングを施すとともに、永年の実績から培われたノウハウを駆使して、デザイン性が高く、低価格での提供を実現している。デザイン・印刷・納品まで一貫して同社で行い、最低価格3万円(100部)で作成可能だ。「経営者であれば、365日高い生産性を維持し、長く働いて稼いでくれる営業マンを欲していることでしょう。もし、営業マンがその役割を果たせないなら、会社案内がその役割を担えば良いのです」と荒井社長は話す。お客様の「作りたたい」を形にする同社は、今後も5つのスピリットで顧客の要望に応え続けるだろう。  
詳しくはホームページにて  
(http://www.print-nisso.com)

# 季節の素材を活かした手づくり菓子を届けたい 田園調布に店を構える 人気洋菓子店

ルージュブランシュ



フランスで洋菓子の腕を磨いた若林店長



ショーケースには季節を感じる洋菓子が並び

ルージュブランシュ(大田区田園調布、若林実店長、(本店)03・3722・9729(田園調布支店)03・3721・7261)は、田園調布で営業している洋菓子店で、現在中原街道沿いの本店と田園調布駅近くの田園調布支店の2店舗を展開している。オーナーである若林店長は、成城にある老舗「マルメゾン」で6年間修行した後、研修のためフランスに渡って腕を磨いた。その後、横浜で店を構えてオーナーシェフとして独立、平成13年より現在の本店に移転し、平成14年に支店をオープンした。

店名は、若林店長がフランスに研修に行く直前に、東京駅の八重洲口でデザート専門店をやってみないかという誘いがあったため、フランス研修中にデザートメニューや店舗のコンセプトをあれこれ考えている時に浮かんだとのこと。女性客が多く訪れる店を想定し、女性の好きな色である「ピンク」をテーマとして、フランス語の赤「ルージュ」と白「ブラン」を合わせた店名が閃いたそうだ。この店名を若林店長は気に入っており、田園調布に店を構えた現在でも使用している。

同店の本店では、喫茶ルームを併設、その場でデザートを味わうことができる。また、田園調布支店

では、パティシエによるお菓子教室も開催している。

同店では、生菓子から焼菓子、チョコレート、さらにはウェディングケーキ、砂糖細工、餡細工など様々な洋菓子を作製しており、自分でつくれるものもはできる限り自分でつくり、お客様に同店の洋菓子をお余すことなく召し上がっていただきたいという考えを持っている。季節に合った旬の素材を厳選し、一つひとつ丁寧な心を込めてつくっている。とりわけ、生クリームを使ったロールケーキは、田園調布マダムのお心を一番人気だ。最近では、パーティのケーキフェアなどに出店し、好評を博している。季節ごとに様々なケーキや焼菓子を揃えているので、目移りしないよう注意が必要だ。ファックス(電話番号と同じ)でのご注文も受付中。  
詳しくはホームページにて  
(http://www.rougeblanc.com/)



# インキと共に半世紀 インキの付加価値を高め、 新たな可能性へ挑戦し続ける

成東インキ製造

成東インキ製造(世田谷区船橋、出川秀敏社長、03・3329・0171)は、1941年に創業

はデジタル化の波にさらされている。そのような中、同社はインキを卸販売するだけではなく、新しい技術への挑戦や、印刷技術に応用した新製品や新事業を顧客に提案することによってインキの付加価値を高めてきた。「成東インキなしではできない」というニーズを生み出す努力を怠らない。

販売を行っており、インキメーカーや印刷関連材料の販売の他、1997年よりDTPシステム化に伴い、プリプレスシステムの販売も開始、営業部門では東洋インキ製造(株)の全製品の取扱地区代理店であり、DIC(株)を始めとするインキメーカー製品の販売も扱っており、富士フィルム(株)他、多くの取引会社を有している。

インキ製造は印刷業界の動向に大きく左右され、その印刷業界

新しい分野へも挑戦している。一昨年起こった東日本大震災の際にテレビ画面に映し出された津波警報の地図の配色は、色弱の人々にとっては認識しづらいものであった。こうした声に応えるべく、同社はインキ製造・販売の枠を超え関連会社と協同して「配色のユニバーサルデザイン」にも取り組む方針だ。



色の整合工程。熟練の技術で色を合わせている



現在開発中の伸縮性に優れたインキ

出川社長が最も大事にしていることとして、「顧客を大切にするために社員一人ひとりの能力を活かす」という方針があり、社員には自由な発想・発言を期待しており、月に一回は製造部門と販売部門全員が参加する技術勉強会も開いている。常に挑戦し続ける同社の社員一人ひとりの力が、未来への発展を切り拓く。

# 喜びの味に「いやさか!」 近江牛を存分に味わえる スタイリッシュな焼肉店

いやさか

「いやさか」(品川区西品川、宮内好昭社長、03・5719・4529)は、大崎駅南口から徒歩

5分、百反坂(ひゃくたんざか)沿いにある隠れ家的な佇まいの素敵な近江牛DINING(焼肉店)。「いやさか」を漢字で書くと「弥栄」、「いよいよ栄える」という意味で、ボーイスカウトで、「いやさか(バンザイ)！」という掛け声を使っていたと懐かしむ方も多そう。店名には、近江牛のおいしさを焼肉はもちろんのこと、様々な料理でもてなしをし、長く愛される店でありたいという想いが込められている。

神戸牛、松阪牛とともに日本三大和牛と言われている近江牛は、江戸時代は将軍家へ献上され、現在では宮内庁御用達となっている。歴史的にも非常に由緒ある牛肉で、口に入れると溶けてしまうほど柔らかく、独特の甘みが口一杯に広がる。同店では、特上の素材



絶品の近江牛を存分に堪能できる



●営業時間  
■ランチ 月～金 11時30分～14時(Lo13時30分)  
土 11時30分～15時(Lo14時)  
■ディナー 月～土 17時～23時(Lo22時30分)  
日 17時～21時(Lo20時30分)  
■定休日 祝日

を活かし、牛肉本来の味わいを堪能していただくため下味はつけていない。一枚一枚手切りされた肉を岩塩と胡椒だけでいただくのがお薦めだ。機械切りではないカツトの美しさや、臭みのない新鮮な素材を、感覚を研ぎ澄まして口にすると、そのおいしさはとびきりだ。

素材のこだわりは肉だけにとどまらない。アンチョビが絶妙なアクセントとなっているバーニャカウダは、野菜ソムリエが選んだ季節の厳選野菜を使用しており、女性客から大人気。また、ランチメニューにある「いやさか極みバーガー(税込1,260円)」は、国産小麦100%のパンズと、手ゴネでつくられた近江牛100%パテが絶妙のハーモニーを奏でる。フレンチ出身シェフの繊細な盛り付け、ベテランチーフやマネージャー、スタッフの温かいおもてなしで洋風にアレンジされた焼肉を同店で味わってみてはいかが?皆様の繁栄をお祈りして「いやさか!」

# 全国菓子大博覧会金賞受賞の逸品 品質に妥協しない 誠意ある和菓子

御菓子司青柳



一番人気の「瀬谷八福神」

魅焼きに求肥でくるんだ小倉あんをはさんだオリジナルの和菓子で、高級白ザラメを使用しているため後味がすっきりとした上品な甘さに仕上がっている。また、包み紙にも注目してみると、瀬谷の名所である瀬谷八福神(七福神にダルマ大師を加えて八福神という)巡りの地図になっている。

御菓子司青柳(横浜市瀬谷区瀬谷、高橋義徳店主、045・302・9017)は、高橋店主が叔父の元で和菓子づくりの修行を積んだ後、昭和49年に独立、創業以来40年近くの長きに亘って地元の瀬谷で親しまれている和菓子屋だ。開店当初から材料にこだわりを持って

「誠意のある食べ物をつくることを日頃から心掛けています」と高橋店主はやさしく語る。そのため、買っただけのお客様を想い、材料の質は落とさずに心を込めて和菓子をつくっている。

いるが、和菓子の原料である高級白ザラメと北海道産の小豆には特にこだわっており、品質は一切妥協をしない。

「これからも、お客様からの『おいしかった』という言葉を力にして、1日も長く和菓子づくりをしたい」とのことである。皆さんにも是非同店の和菓子をお味わってください。



心のもった和菓子をつくり続ける高橋店主

このような、強いこだわりを持って、和菓子づくりをした結果、全国菓子大博覧会にて金賞を3回も獲得した名店である。金賞受賞作の中で一番人気の商品が「瀬谷八福神」である。「瀬谷の逸品」にも選定されており、「地元、瀬谷のお土産になるお菓子」という強い要望に応えるべく、1年以上試行錯誤をして誕生した逸品である。香川県から特別に取り寄せた



# 差別化を図るコンセプト賃貸を提案 地域に根ざした 老舗総合建築会社



シェアハウス「ヴィラーヂ」中原駅前

張りで開放感があり、室内から屋上へ上がると東京スカイツリーと東京タワーの並ぶ姿や富士山も望める。「今回は自社物件でしたが、2カ月で満室となりました。このノウハウを他の物件でも活かしていきたい」という。

ジェクト

ジェクト(川崎市中原区上小田中、市川功一社長、044-755-2525)は、大正9年の創業以来、建築・企画・設計・施工を中心に地域の発展と共に歩み、近年では建築のみならず、不動産の賃貸管理を通じて長期的にオーナーの賃貸経営をサポートしている。

同社が営業する川崎市中原区は、武蔵小杉駅の再開発の影響で人口増加が著しく、賃貸物件の建築も非常に多い競争の激化している地域だ。しかし、同社は「常にお客様の立場で物事を考え、お客様にご満足いただける住空間を創造しサービスを提供すること」を理念に掲げ、より安定した賃貸経営のために差別化を図るコンセプト賃貸を提案するなど、コンサルティングからマネジメントまで資産活用をトータルサポートしている。

その1つが2012年3月に完成したシェアハウス「ヴィラーヂ」中原駅前である。1階は駐車場、2階から6階までは合計30室の個室、7階はキッチン、リビングダイニングの共用スペースとなっている。リビングは大きなガラス



陽の光がふりそそぐダイニングスペース

また、「センチュリー等々力緑地」は、「ペットと暮らし、ペットを通じて育むコミュニティ」をコンセプトとした賃貸物件で、併設のペットケアルームでは月1回、無料でケアサービスが受けられる。ペットの足を洗えるフットシャワー等も完備し、室内もペットと楽しい時間を過ごせる工夫が目白押しで51世帯が満室となっている。  
「今後も地域No.1を目指し、さらなる品質とサービスの向上に社員一丸となって取り組んでいきます」と市川社長は話す。  
(http://www.jecto.co.jp)

# 他社で断られた方は必見! 城南地域の町工場で キラリと光る金属加工業者

大志工業(大田区西六郷、沖山裕夫社長、03-3735-6761)は、医療用設備機器・半導体製造装置・光学機器・航空機関連等あらゆる金属の微細精密部品の製造を手掛け、確かな加工技術を背景に高付加価値を生み出している創業44年の金属加工業者だ。同社では、軽くて硬い素材のモリブデン・タングステンなどレアメタル(希少金属)のような切削加工が難しい金属でも豊富なノウハウにより、他社ではできない加工の技術を持ち合わせている。

大志工業



このワイヤー放電加工機で鉗子を製作する

また、医療器具で手術に用いられる鉗子(かんし)の精密加工は、同社が永年培ってきた高い技術の粋が見て取れる。鉗子とは、手術器具で臓器をはさんで保持するものだが、血管をはさんで出血を止めるほか、「つまむ」「はさむ」「広げる」など様々な用途で使用され、手術だけではなく、消毒された医療器具や包帯などを直接手で触れ



同社の技術の粋が集結した鉗子

ずに取り出すのにも使用されるなど、指先の操作一つで微妙な動きを可能にする必要がある。吉田技術部長も「金属加工に従事している方が見れば、この技術力の高さは評価してもらえると、その技術に絶対的な自信を持っている。同社は、「人にやさしいものづくり」「地域にやさしいものづくり」を環境方針に掲げ、2007年ISO14001認証・2008年ISO9001認証を取得するとともに、全従業員に対し環境基本方針に対する教育を行い、地域環境への配慮を心掛けている。信頼・技術・品質・環境保全、全てを兼ね備えた同社が、日本の「ものづくり」を支えている。

前述の通り、あらゆる素材の精密部品や多工程に亘る複合加工などの難しい仕事を得意としているので、他社でできないと断られた方は、まずは同社にお問い合わせすることをお勧めする。

# フィルタの総合メーカー 日本を元気にするという ロマンを求めて

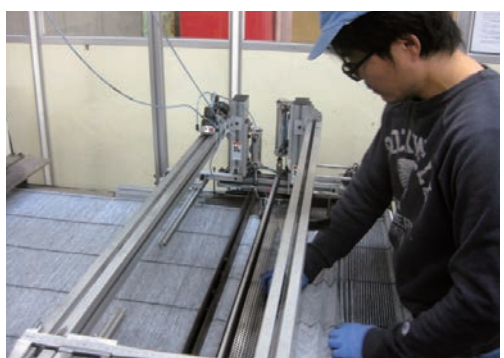
泰光(相模原市中央区宮下、橋本元博社長、042-773-6161)は、昭和44年に設立、当初は乗用車のエアフィルタエレメントの製造販売を行っていたが、現在では空調用、自動車用、産業用フィルタを柱とした、フィルタの総合メーカーとして活動している。同社は機能性だけを追い求めるのではなく、地球環境に優しいフィルタづくりにも力を入れており、ISO14001認証を2004年に、ISO9001認証を2008年に取得している。

泰光



「日本を元気にするために国内でやっていく」と橋本社長

限られた資源を大切にし、環境負荷物質を排除、あらゆる部材に対しクリーン調達を心掛けており、リサイクルが可能な素材を選定、かつ廃材の発生を考慮、同一素材化・簡素化・着脱化等、お客様に付加価値の高い商品の開発、提供をしている。  
さらに、顧客のニーズに合わせてフィルタの製造、大量生産から個別受注まで様々な受注に対応し



茨城工場にある同社独自の濾材(ろざい)を切断する機械

同社では、オリジナルの改善活動「タイトピア活動」を行っている。この活動は、社長を含め社員全員による話し合いにより、ムダ、ムラ、ムリを省き、作業の合理化を図ることにより、働きやすい職場にするためのもので、実際にこの活動で生産性が2倍以上上がった部門もある。社訓には「努力、謙虚初心、夢(ロマン)」を掲げている。「努力を怠らず、謙虚な姿勢で、初心を忘れず、常に夢(ロマン)を持ち続ける。この姿勢が大切なんだ。海外に工場を造って、安くフィルタを製造することはできるかもしれない。しかし、うちは日本を元気にするために国内でやっていきたい」と橋本社長は力強く話す。同社はこれからも日本の製造業としての誇りを持ち、日本を元気にするというロマンのもと、突き進んでいくだろう。